

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな Asia時事フラッシュ

タイ中銀：利上げ終盤を示唆

◆ タイ中銀が利上げを続けた

- 8月2日のタイ中銀会合では0.25%利上げを実施し、政策金利を2.25%に引き上げた。政策金利の引き上げは7会合連続。以下は声明文の主な内容。
- 利上げの理由** インフレが鈍化し、今後目標レンジに推移するが(左下)、上振れリスクがある。経済が回復する中、金融政策はインフレの目標レンジでの安定推移と長期マクロ金融安定性に作用する。先行き不透明感がある中、利上げも金融政策の余地をもたらす。
- 経済見通し** タイ経済は引き続き観光業と個人消費のけん引で回復していく。輸出は中国の需要鈍化とグローバル電子部品サイクルで鈍化したが、グローバル経済の回復に伴い、改善する見込み。経済の下振れリスクは輸出の低迷継続と国内政治の不透明感。
- 物価見通し** 総合インフレはエネルギー価格の下落、生活補助金、ベース効果の影響で鈍化したが、その影響の剥落で年後半に反発する見通し。上振れリスクはエルニーニョ現象による食品価格の上昇(下中央)。
- 金融政策** 金融政策は引き続きインフレが目標レンジで安定推移することとマクロ金融の安定性を確保する必要がある。今後の政策は経済と物価見通しを考慮しながら、リスク評価も行う。

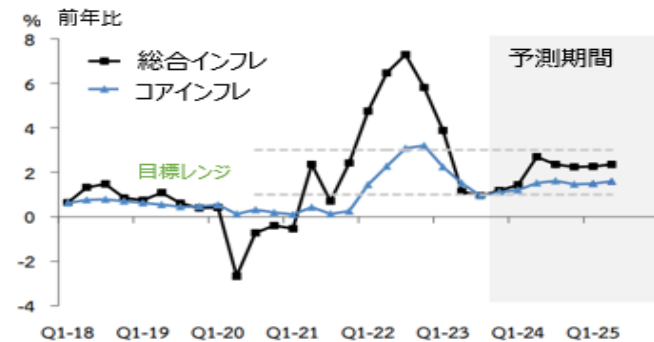
◆ 利上げ終盤を示唆

- インフレがすでに目標レンジに戻った中、タイ中銀が今回利上げしたのは、インフレ抑制を重視しつつ、今後の金融政策の余地に着眼点を置き始めたといえる。
- 経済見通しについては前回と異なり、上振れリスクに言及せず、下振れリスクに言及した。また、インフレ見通しについては今まで需要圧力と潜在的な企業の価格転嫁による上振れリスクを重視してきたが、今回はエルニーニョ現象による食品価格の上昇に変わり、影響の不透明感(右下)にも触れ、若干トーンダウンといえる。
- 金融政策については今まで政策の正常化のサイズとタイミングを調整する用意があるという正常化重視のスタンスだったが、そのような文言がなくなり、リスク評価に言及。
- 総裁補佐のPiti氏が政策金利が中立金利に近づいていると発言。総じてタイ中銀はインフレリスクと景気リスクとの間のバランスをとるようになり、利上げ終盤に近いと言える。ただし、タイ中銀はFRBの利上げ到達点が5.5%と見ているため、FRBがもう一回利上げを実施した場合、タイ中銀に影響を与える可能性がある。

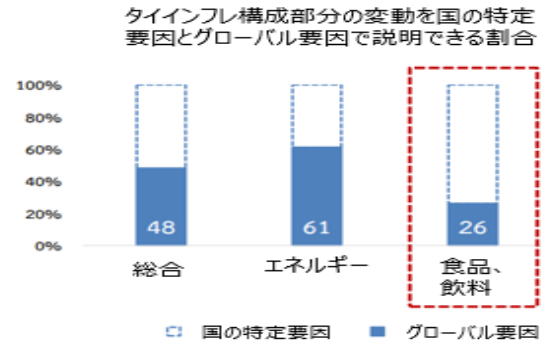
◆ パーツへの影響

- 当面のパーツを展望すると、金融政策面ではパーツは不利になることがないだろう。しかし、政権移行をめぐる不透明感がパーツの重しとなり、パーツは対ドルでやや軟調に推移しやすい。対円については日銀の金融緩和継続を見据えて金利差を狙う取引が再び活発になったため、パーツ円は底堅く推移するだろう。

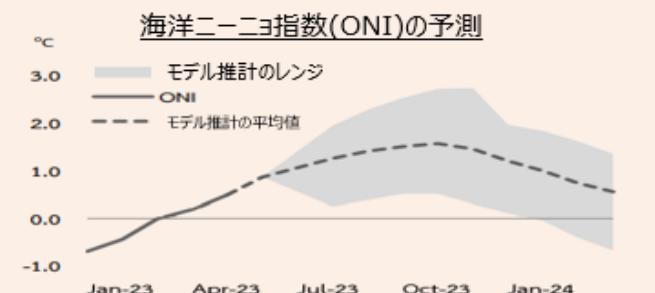
インフレが鈍化したが、その後、反発する



タイのインフレはグローバル食料価格からの影響を受ける



エルニーニョ現象のインフレへの影響は不透明



出所:タイ中銀

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。